

2020年12月期 決算説明会 質疑応答の要旨

Q1：主要製品カテゴリーの競合状況とシェア変動について

A1：当社の主要製品であるハンディオーディオレコーダー、マルチエフェクターの競合他社とのシェア変動はないと考えております。ただし、新しい市場であるポッドキャスト向けの製品であるハンディーレコーダー、Pシリーズ（ポッドキャスト用デジタルミキサー）は、当社がシェアを拡大中と考えております。

Q2：今人気が急速に拡大している Clubhouse（クラブハウス）など簡易な音声アプリのユーザーの中に、デジタルミキサーやデジタルレコーダーを必要とするユーザーが存在するのかどうかについて

A2：Clubhouse（クラブハウス）ユーザーは、当社の製品をポッドキャストと似たような使い方をすると考えており、今は気軽にチャット配信できるクラブハウスが、やがてポッドキャストのように、質の高いコンテンツを配信し共有したいニーズが高まってきたとき、複数の人数で、ミキシングのバランスや音質にこだわる需要が一定程度あるのではと考えております。

また、スマホ単体でクラブハウスを利用する場合であっても、USB type-C やライトニングコネクタに直接取り付けることが可能な当社のマイクを使用すると、飛躍的に音質が変わりますので、そこにも需要増加要因があります。

さらに、音声アプリ等の簡易な利用であれば、当社の製品は使う必要が無いのではというご意見ですが、オンラインミーティング、オンラインレッスンを体験されると、イヤフォンやヘッドフォンの長時間装着時の音質等の影響により、徐々に不快に感じたり疲れたりすることがございます。当社の製品をご利用していただくことにより、リアルな音質で快適に聞くことが出来ますので、そこに需要があると考えております。

ポッドキャスト向けの当社製品の需要の増加については、音楽用かポッドキャスト用かといった具体的な数値の把握はしていませんが、当社がユーザーからのフィードバックを受けるユーザー登録のデータでは、主力製品であるハンディオーディオレコーダーの購入目的として、ポッドキャスト用が相当程度ございます。その傾向は日本国内より北米が顕著で、日本でもポッドキャスト用に当社の製品を購入するユーザー登録が増えている傾向がございます。

Q3：3 億円のコスト増となるサプライヤ変更になる部品はどのようなもので、そのコスト総額はどの程度かについて

A3：主な対象部品は、AD コンバータ、DA コンバータです。AD コンバータは、アナログで取込んだマイクの音をデジタルに変換するもの、DA コンバータは、デジタルで処理した音をアナログに変換するものです。当社のほとんどの製品に組み込んでいるため、影響が非常に大きくなっております。

火災が発生した直後（2020 年 10 月）から、これらの部品を使用している製品の設計変更を行い、他社メーカーに切り替えるため、当社のエンジニアの 9 割が、従来の製品の回路の設計変更、基板の変更と性能のチェック、機構の組み立て確認等を行っており、その人件費を含めたコストの増加が 3 億円程度になると考えております。

Q4：今後、DMX（デジタルミキサー）の売上はどこまで伸びる想定で、また、中期経営計画の数値との関係について

A4：DMX カテゴリーの 2021 年連結業績予想は、売上 2,217 百万円、前年比 756 百万円増（前年比 55.2%増）です。

2022 年、2023 年も同じ調子で伸びていくとは想定しておりませんが、現在、ポッドキャスト向け製品の需要は北米中心に拡散しており、徐々にヨーロッパでも拡散して商品の需要も伸びております。

今後は、日本、中国、その他アジア諸国でも前年比 10%から 20%程度の売上増加が見込めると考えております。